

母子健康手帳の一部改訂ならびに母子健康手帳と学童健康手帳との関連に関する研究
母子健康手帳利用度の調査並びに学校に於ける健康手帳に関する調査

分担研究者 高橋悦二郎（愛育会総合母子保健センター）
研究協力者 大国 真彦（日本大学小児科）
高石 昌弘（国立公衆衛生院、東大教育学部）
平山 宗宏（東京大学母子保健学科）
松山 栄吉（東京厚生年金病院産婦人科）
本多 洋（三井記念病院産婦人科）
堀口 貞夫（愛育病院産婦人科）
國崎 弘（文部省体育局学校保健課）
三木 和彦（ 同 上 ）

研究目的

昭和18年母子手帳が出来てから40年、この間何度かの改訂がなされ、最近では昭和51年に母子健康手帳のかなり大幅な改訂があった。

もともと母子健康手帳は母子保健法にもとづいて、妊娠の届出をしたものに対して交付され、母子保健の場で広く用いられて来た。妊娠から出産時の記録、出生後の児の記録、かなり大量の母子に関する情報が、この一冊の手帳に盛りこまれている筈であるが、実際にはその利用、活用はそれ程でもない。妊娠中の記録や予防接種の記録、1歳迄の記録はまだしも、幼児期殊に3歳児検診後の記録となると、むしろ記載のないものの方が多い。又問題のあるケースでは記載しにくいのであろうが、母子健康手帳から情報を得ることはなかなか困難である。

実際に母子健康手帳はどの程度利用されているのであろうか。又使いにくいとしたら如何なる点に問題があるのであろうか。小学校に入ると今度は学童健康手帳が使用されるが、母子健康手帳と学童健康手帳と、うまく関連づけられないであらうか。

本年度は母子健康手帳の記載が実際にどの程度行われ利用されているのか、又学校における母子健康手帳利用度調査、学校における健康手帳に関する状況を知ろうとした。

調査方法

母子健康手帳の各ページがどの位記載されているか全ページにわたって調べた。

妊娠及び0歳児の記録については、全国170カ所にある母子衛生研究会相談室所属の保健婦に依頼し乳児検診に来所した995人の母親の持参した母子手帳をつぶさに調べて貰い、各ページ毎によく記載してあるか、不十分な記入か、記入なし、予め用意しておいたアンケート用紙に回答して貰った。

1歳から6歳までの母子健康手帳の活用度については、日本小児保健学会員であり、小児科開業の医師（40名）から251名についての調査回答を得た。なおこれ等の小児科医から、母子健康手帳改訂に関する意見も求めた。

更に母子健康手帳と学童の健康手帳との関連をみる為に、入学の時等母子健康手帳を学校へ持参させているか否か、保健調査の時に母子健康手帳記載事項を転記させているか否か等についても調査した。全国2,000校の小学校長、養護教諭宛に表(1)のようなアンケート用紙を配り、又学童健康手帳の使用状況については、昭和57年日本学校保健会の全国実態調査アンケート（表(2)）について検討した。

表(1) 母子健康手帳利用度調査

つぎの質問にご記入またはあてはまる項目に○印をつけてお答えください。

学校所在地：(〒) 都道府県

学 校 名：国立
公立
私立

1. 児童生徒の健康管理のために、母子健康手帳を学校へ持参させていますか(入学の時など)。

1. は い 2. いいえ



A 何人くらいの人に持参させていますか

1. ほとんど全員
2. 問題のある児童のみ
3. その他

B 現在まで、持参させることについて何か問題がありましたか

1. は い

【具体例：

2. いいえ

2. 保健調査の時に、母子健康手帳記載事項を転記させていますか。

1. は い 2. いいえ



転記させている主な部分に○印をつけてください。

(2つ以上に○印がついても結構です)

1. 母親の妊娠中の状況
2. 出生時の状況
3. 出生後の子どもの状況
4. 予防接種の状況

(身体計測値、健診結果など)

3. 保健調査に、就学前の健康についての設問がありますか。

1. は い 2. いいえ

表(2) 学童健康手帳に関する調査

あなたの学校の健康手帳(健康に関する指導・管理を進めるために生徒に配布している手帳を含む)についておたずねします。

A 健康手帳を採用していますか

1. 全学年で採用している
2. ある学年で採用している
3. 全く採用していない

B 上記で「1及び2」と答えたとき、その健康手帳は、どのように作成されたものですか

1. 学校独自で作成したもの
2. 市町村単位で作成したもの
3. 都道府県単位(学校保健会等の保健関係団体を含む)で作成したもの
4. 出版社が作成したもの
5. その他()

C Aにおいて「1及び2」と答えたとき、その健康手帳は、1冊いくらでしたか。また、費用はだれが負担していますか。

1. 1冊の定価はいくらですか 円
2. 費用はだれが負担しましたか

- (1) 全額父兄負担
(2) 一部父兄、一部公費負担
(3) 全額公費負担

D Aにおいて「1及び2」と答えたとき、健康手帳の大きさはどのくらいですか

1. A 4 2. A 5 3. A 6
4. A 7 5. B 4 6. B 5
7. B 6 8. B 7 9. その他

E Aにおいて「1及び2」と答えたとき、健康手帳の頁数はどのくらいですか

頁

調査結果

(1) 母子健康手帳記入状況

A) 妊産婦の記事

1. 妊婦の記事(手帳6頁)

これは妊婦自身が身長、妊娠前体重、結婚年齢、その他既往症などを記入する欄である。

対象中初妊婦が約60%を占めているが、これの記載については、995例中無回答35例を除き、

良く記入 60.2%

不十分 33.0%

記入なし 6.8%

で90%以上に記入が認められている。

2. 妊婦の職業と環境(手帳7頁)

これは有職の勤労妊産婦がふえてきたためと、生活環境として居住条件が問題になったため設置された頁である。

回答者の中には、無職の主婦が過半数存在するが、無回答77例を除くと、

良く記入 54.5%

不十分 27.8%

記入なし 17.8%

で、80%以上の記入率であった。

3. 妊娠中の受診回数(手帳8～11頁)

これは妊娠中の定期健康診査の受診状況の調査であるが、この部分は記入回数で調べている。回数0のもの、すなわち妊娠中の受診0と考えられるものが51例あった。(これは無回答例を含むとも推測できる。)他は

1～3回 1.1%

4～6回 7.0%

7～9回 29.7%

10～12回 44.1%

13～15回 14.7%

16～18回 2.5%

19回以上 1.0%

で、60%以上が10回を超える受診をしている。

なおその際の施設者側の実施記録には、

サインを用いているもの 約33%

印を用いているもの

約65%

であった。

4. 妊婦自身の記録(手帳8頁)

初診日については、無回答19例を除き、

記入あり 85.0%

最終月経開始日については、無回答25例を除き、

記入あり 86.8%

胎動初覚日については、無回答50例を除き、

記入あり 71.6%

分娩予定日については、無回答16例を除き、

記入あり 94.1%

で記入率はいずれも高率であった。

5. 質問したいことの覚え書(手帳9頁)

これについては無回答87例を除き、

記入あり 22.9%

で記入がきわめて少いことがわかった。

6. 妊婦自身の記録(手帳10頁)

出産前後の居住地、無回答19例を除き、

記入あり 71.0%

出産時の連絡先、無回答39例を除き、

記入あり 60.6%

入院の方法、無回答36例を除き、

記入あり 59.7%

所要時間、無回答49例を除き、

記入あり 53.5%

と上段からしだいに記入率が低くなっていく。

7. 質問したいことのおぼえ書き(手帳11頁)

無回答71例を除き、

記入あり 11.7%

で妊娠前半の部分(手帳9頁)よりもさらに記入率が低下した。

8. 出産の状態(手帳12頁)

この欄は分娩時の状況について施設側で記入するものである。無回答51例を除いて、

くわしく記入 91.7%

不十分 6.5%

記入なし 1.8%

で記入率はきわめて高かった。

この中の分娩取扱者の記名は、無回答が37例あったが、

医師欄に記名 49.5%

助産婦欄に記名 4.0%

両欄に記名 46.1%

記名何れにもなし 0.4%

で医師の署名のあるものが95%を超えていた。

9. 出産後の母体の経過(手帳13頁)

この欄は記入回数で調べている。すなわち産後の受診状況の記録をみるものであるが、0回(無回答もふくむ)が139例もある。他は、

1回 32.5%

2回 31.5%

3回 17.3%

4回 14.4%

5回以上 4.3%

で産後の受診の回数は60%以上が1~2回にとどまっている。

同ページの親自身の記録については、

入浴開始日 無回答46例を除き、

記入あり 30.2%

家事開始日 無回答58例を除き、

記入あり 25.5%

労働開始日 無回答81例を除き、

記入あり 16.1%

月経再開日 無回答70例を除き、

記入あり 22.1%

受胎調節実地指導 無回答78例を除き、

記入あり 11.6%

と記入率はいずれも低率にとどまっている。

10. 歯の状態(妊娠中と産後の歯科検診手帳14頁)

このページは無回答88例を除き、

記入あり 15.9%

で歯科検診がまだ普及していない状況を物語って

いる。

11. 妊娠中と産後の体重変化の記録(手帳15頁)

これは妊婦の自己管理記録のための頁であるが、無回答39例を除いて、

産後までよく記入 28.2%

妊娠中のみよく記入 29.2%

不十分な記入 5.3%

記入なし 36.7%

で記入率は60%を超えるがまだ充分に利用されていないといつてよい。

12. 母親学級受講記録(手帳16頁)

この手帳では9回まで記録可能であるが、

0回 17.5%

1回 38.1%

2回 32.5%

3回 5.0%

4回 5.1%

5回以上 1.8%

で過半数が1~2回の受講にとどまっている。

13. 保護者の記録(出生時の記録その他)、こ

れは母親が主に記入する部分である。(手帳18頁)

無回答51例を除き、

よく記入 44.8%

不十分な記入 14.0%

記入なし 41.2%

で記入率が不良である。

14. 早期新生児期の経過(手帳19頁)

無回答49例を除き、

よく記入 83.6%

不十分 7.9%

記入なし 8.5%

で記入率は高率であった。

15. 退院時の記録(手帳19頁)

無回答56例を除き、

よく記入	7 8.2 %
不十分な記入	1 0.0 %
記入なし	1 1.8 %

で高い記入率がえられている。

16. 晩期新生児期の経過（手帳 19 頁）

無回答 65 例を除き、

よく記入	4 2.6 %
不十分な記入	1 2.8 %
記入なし	4 4.6 %

で記入なしが多くなっている。

B) 乳児の記事

1. 乳児身体発育値（手帳 20、22 頁）

無回答 66 例を除き、

よく記入	4 4.2 %
不十分な記入	1 6.7 %
記入なし	3 9.1 %

で記載のないものが多い。

2. 保護者の記録（満 1 カ月頃、手帳 24 頁）

無回答 81 例を除き、914 例中

よく記入	7 5.6 %
不十分な記入	8.8 %
記入なし	1 5.7 %

で比較的高い記入率である。

3. 1 カ月健康診査（手帳 25 頁）

無回答 64 例を除き、931 例中

よく記入	8 9.1 %
不十分な記入	7.8 %
記入なし	3.0 %

で高い記入率が得られ、乳児の記録の項目では最高である。

4. 次の健康診査までの記録（手帳 25 頁）

1 カ月から 3～4 カ月の間の健診記録であるが、健診を受けなかったり無回答のもの 112 例を除き、

よく記入	5 6.4 %
不十分な記入	1 0.6 %

記入なし	3 3.0 %
------	---------

でかなり記録のないものが、この頃から既に見られ始めている。

5. 保護者の記録（3～4 カ月頃 手帳 26 頁）

無回答のもの 129 例を除き、866 例中

よく記入	7 5.6 %
不十分な記入	1 2.2 %
記入なし	1 2.1 %

で保護者の記録としてはまあまあである。

6. 3～4 カ月健康診査（手帳 27 頁）

無回答 142 例（月齢がまだ 3～4 カ月に到達しないものが大部分で無記入も少数含まれる）を除き、853 例中

よく記入	8 7.8 %
不十分な記入	5.9 %
記入なし	6.3 %

この月齢ではまだ比較的良好に記入されている。

7. 次の健康診査までの記録（手帳 27 頁）

無回答 190 例を除き、805 例中

よく記入	6 2.1 %
不十分な記入	1 1.6 %
記入なし	2 6.3 %

で手帳 25 頁の同項目よりはやや多くなっている。

8. 保護者の記録（6～7 カ月頃、手帳 28 頁）

回答者 745 名中

よく記入	7 3.0 %
不十分な記入	1 1.0 %
記入なし	1 6.0 %

9. 6～7 カ月健康診査（手帳 29 頁）

回答者 709 名中

よく記入	7 3.0 %
不十分な記入	7.6 %
記入なし	1 9.3 %

で、8 の保護者の記録と唯々同率となっている。

10. 次の健康診査までの記録（手帳２９頁）
 ６～７カ月から９～１０カ月の間の健診記録で
 あるが、回答者６７４例中

よく記入 ５６.１％
 不十分な記入 １１.３％
 記入なし ３２.６％

と記入なしのものが多くなっている。

11. 保護者の記録（９～１０カ月頃、手帳３０
 頁）

回答者６１０例中

よく記入 ６２.１％
 不十分な記入 １１.９％
 記入なし ２６.０％

で半数以上の保護者はよく記入している。

12. ９～１０カ月健康診査（手帳３１頁）

回答者５５５例中

よく記入 ５１.７％
 不十分な記入 １０.０％
 記入なし ３８.２％

13. 次の健診までの記録（手帳３１頁）

回答者５２８例中

よく記入 ４６.６％
 不十分な記入 １１.７％
 記入なし ４１.７％

14. 保護者の記録（満１歳の頃 手帳３２頁）

回答者４９８例中

よく記入 ５４.０％
 不十分な記入 １６.７％
 記入なし ２９.３％

15. １歳健康診査（手帳３３頁）

回答者４１８例中

よく記入 ５３.３％
 不十分な記入 ６.７％
 記入なし ４０.０％

以上１２～１５迄は月齢が段々進むにつれ記入
 なしが増えているが、半数くらはよく記入して
 いる。

C) 幼児の記録

1. 次の健診までの記録 （手帳３３頁）	よく記入 ２９.５％ 不十分 １２.０％ 記入なし ５８.５％
2. 保護者の記録 （１歳６カ月の頃 手帳３４頁）	よく記入 ３３.５％ 不十分 ４.８％ 記入なし ６１.７％
3. １歳６カ月健康診査 （手帳３５頁）	よく記入 ３２.３％ 不十分 ８.４％ 記入なし ５９.３％
4. 次の健診までの記録 （手帳３５頁）	よく記入 １３.９％ 不十分 ８.４％ 記入なし ７７.７％
5. 保護者の記録 （満２歳の頃 手帳３６頁）	よく記入 ４８.６％ 不十分 ７.５％ 記入なし ４３.８％
6. ２歳健康診査 （手帳３７頁）	よく記入 ２０.７％ 不十分 １５.９％ 記入なし ６３.４％
7. 次の健康診査までの記 録（手帳３７頁）	よく記入 １１.１％ 不十分 ３.５％ 記入なし ８５.４％
8. 保護者の記録 （満３歳の頃 手帳３８頁）	よく記入 ４３.８％ 不十分 ７.５％ 記入なし ４８.７％
9. ３歳健康診査 （手帳３９頁）	よく記入 ３９.８％ 不十分 １５.１％ 記入なし ４５.１％
10. 次の健診までの記録 （手帳３９頁）	よく記入 １０.３％ 不十分 ３.９％ 記入なし ８５.８％
11. 保護者の記録 （満４歳の頃 手帳４０頁）	よく記入 ２６.６％ 不十分 ４.３％ 記入なし ６９.１％
12. ４歳健康診査 （手帳４１頁）	よく記入 ７.５％ 不十分 ３.５％ 記入なし ８９.０％
13. 次の健診までの記録 （手帳４１頁）	よく記入 ３.５％ 不十分 １.２％ 記入なし ６４.９％ 無回答 ３０.４％
14. 保護者の記録 （満５歳の頃 手帳４２頁）	よく記入 １２.３％ 不十分 ２.７％ 記入なし ３５.６％ 無回答 ４９.４％

15. 5歳健康診査 (手帳43頁)	よく記入	1.6%
	不十分	0.4%
	記入なし	50.1%
	無回答	47.8%
16. 次の健診までの記録 (手帳43頁)	よく記入	0.8%
	不十分	0.8%
	記入なし	47.0%
	無回答	51.4%
17. 保護者の記録 (満6歳の頃 手帳44頁)	よく記入	2.4%
	不十分	1.6%
	記入なし	27.4%
	無回答	68.5%
18. 6歳健康診査 (手帳45頁)	記入あり	0.4%
	なし及び無回答	99.6%
19. 幼児身体発育曲線 (手帳21、23頁)	よく記入	17.4%
	不十分	24.9%
	記入なし	57.4%

D) 歯に関する記事

1. 1歳6カ月までの歯の 状態(手帳46頁)	よく記入	26.7%
	不十分	8.7%
	記入なし	64.6%
2. 1歳6カ月から3歳ま での歯(手帳47頁)	よく記入	36.6%
	不十分	11.5%
	記入なし	51.9%
3. 4歳から6歳までの歯 の状態(手帳48頁)	よく記入	4.3%
	不十分	5.1%
	記入なし	38.2%
	無回答	52.4%

E) 予防接種に関する記事

1. ツ反とBCG (手帳51頁)	あり	84.8%
	なし	15.2%
(記録、接種済証貼付)		
2. 百日咳・ジフテリア・ 破傷風	全部あり	72.9%
	1～2回あり	7.1%
(同上、手帳51頁)	なし	20.0%
	1、2回ともあり	79.5%
3. ポリオ(手帳52頁)	1回だけあり	2.4%
	なし	19.0%
(記録、接種済証貼付)		
4. 麻疹(手帳52頁)	あり	67.3%
	なし	32.7%
(同上)		
5. おたふくかぜ	あり	17.1%
	なし	82.9%
(同上)		
6. 風疹	あり	2.4%
	なし	97.6%
(同上)		
7. 日本脳炎	あり	32.6%
	なし	67.4%
(同上)		
8. インフルエンザ	あり	11.9%
	なし	88.1%
(同上)		

Ⅱ 小学校における母子健康手帳利用度調査

母子健康手帳と学童健康手帳との関連に関する研究の一つとして、母子健康手帳がどの程度小学校で利用されているか実態調査をした。全国の小学校2,000校を無作為抽出し、表(1)に示すようなアンケートを送り、1,392校から回答を得た。

回収率は69%。調査の結果は表(3)に示す通りで、入学の時等に母子健康手帳を学校に持参させているものは13.7%、保健調査の時に母子健康手帳記載事項を転記させているものは68.5%に達している。

母子健康手帳を学校に持参させる際、問題があったと答えているものは10.5%見られたが、その内容は次の様な事であった。

1. 記録もれが多くて役に立たない。
2. 紛失する家庭が多い。
3. 離婚、再婚、養子等親子関係に問題のある家庭では、秘密保持の為手帳の提出に難色を示す。事実プライバシーが子どもにもれて問題になった例がある。

等があげられている。

保健調査の法的根拠については、学校保健法施行規則第八条の二に規定されており、小学校第一学年で実施することになっている。またその他の学年においても必要と認める時に実施することになっている。その内容については、主として発育、健康状態等についてである。このような保健調査の目的から考えると、本調査は興味ある事を示唆している。

即ち学校保健法等において母子健康手帳の利用等についてその記載は特になく、指導も特にそれに触れず、母子健康手帳の利用はすべて地域又は学校の判断にまかされている。

今回の調査によって約70%の学校において、母子健康手帳の転記がされている現状は、自主的に地域においてその利用が必要不可欠のものとみなされている事を示している。

母子健康手帳の利用については、学校保健の目的からいって、その必要性は当然の事である。

表(3) 小学校における母子健康手帳利用度調査

1. 児童生徒の健康管理のために、母子健康手帳を学校へ持参させていますか（入学の時など）。

1. はい	2. いいえ	NA	計
191	1,194	7	1,392
13.7 %	85.8 %	0.5 %	100 %

何人くらいの人に持参させていますか

1. ほとんど全員	2. 問題のある児童のみ	3. その他	NA	計
109	55	19	8	191
(57.1%)	(28.8%)	(9.9%)	(4.2%)	(100%)
7.8%	4.0%	1.4%	0.6%	13.7%

現在まで、持参させることについて何か問題がありましたか

1. はい	2. いいえ	NA	計
20	148	23	191
(10.5%)	(77.5%)	(12.0%)	(100%)
1.4%	10.6%	1.7%	13.7%

2. 保健調査の時に、母子健康手帳記載事項を転記させていますか。

1. はい	2. いいえ	NA	計
954	420	18	1,392
68.5%	30.2%	1.3%	100%

	はい	いいえ	計
1. 母親の妊娠中の状況	212 (22.2%)	742 (77.8%)	954 (100%)
2. 出生時の状況	713 (74.7%)	241 (25.3%)	954 (100%)
3. 出生後の子どもの状況	544 (57.0%)	410 (43.0%)	954 (100%)
4. 予防接種の状況	700 (73.4%)	254 (26.6%)	954 (100%)

3. 保健調査に、就業前の健康についての設問がありますか。

1. はい	2. いいえ	NA	計
1,197	174	21	1,391
86.0 %	12.5 %	1.5 %	100 %

Ⅲ 学校における（学童）「健康手帳」に関する状況

学校において「健康手帳」を使用し、児童生徒の保健管理、保健指導を徹底することを奨励するため、昭和36年に文部省体育局長から、「健康手帳について」が通知された。

昭和57年度学校保健センター的事業として、日本学校保健会において、保健指導に関する全国実態調査が実施された。その実態調査の一部の「健康手帳」に関する項目について、次に記載する。

（学童）健康手帳に関する調査項目は表(2)に示した通りで、調査対象学校数は表(4)に示す通り2,748校であり、回収率は78.7%であった。

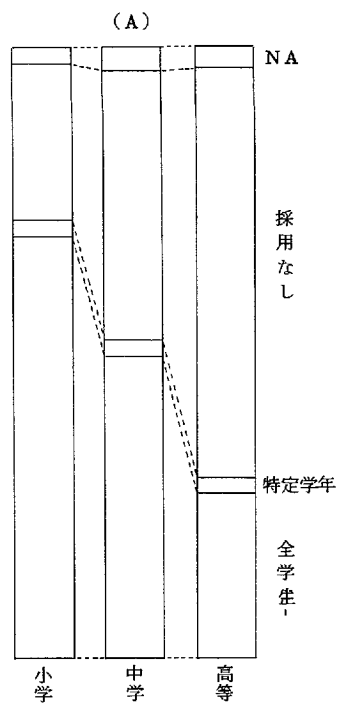
表(4) 調査校数及び回収率

	配布校数	回答校数	回収率
小学校	1,012	804	79.4 %
中学校	1,012	786	77.7 %
高等学校	724	574	79.3 %
合計	2,748	2,164	78.7 %

調査の結果は表(5)～(10)、図(A)～(E)に示す通りである。

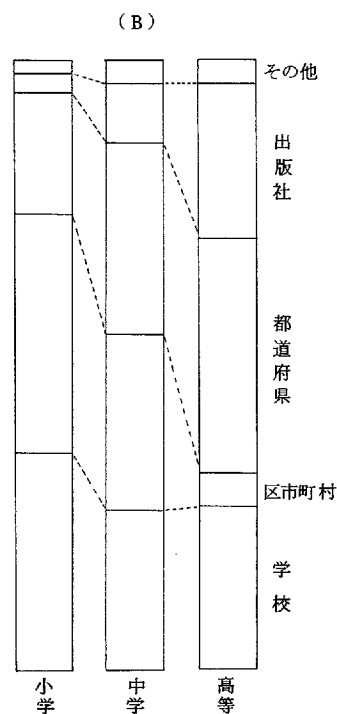
表(5) 健康手帳を採用していますか

	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
全 学 年	559 69.5%	391 49.7%	155 27.0%	1,105 51.1%
特定学年	17 2.1%	18 2.3%	14 2.4%	49 2.3%
採用なし	206 25.6%	349 44.4%	387 67.4%	942 43.5%
NA	22 2.7%	28 3.6%	18 3.1%	68 3.1%
計	804 100%	786 100%	574 100%	2,164 100%



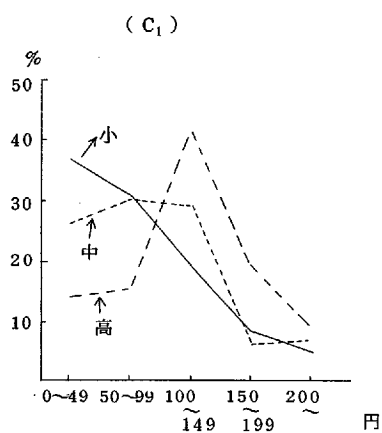
表(6) その健康手帳はどのように作成されたものですか

	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
学 校	207 35.6%	106 25.8%	45 26.8%	358 30.8%
区市町村	171 29.4%	120 29.2%	9 5.4%	300 25.8%
都道府県	174 29.9%	128 31.1%	65 38.7%	367 31.6%
出版 社	18 3.1%	40 9.7%	42 25.0%	100 8.6%
そ の 他	12 2.1%	17 4.1%	7 4.2%	36 3.1%
計	582 100%	411 100%	168 100%	1,161 100%



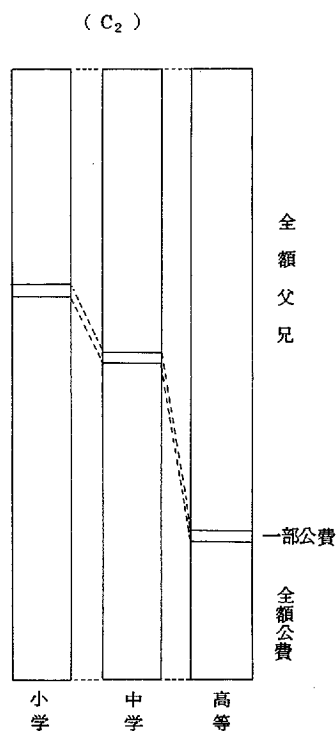
表(7) 1冊の定価はいくらですか

	小学校	中学校	高等学校	計
0～ 49円	170 37.0%	91 26.5%	21 14.3%	282 29.7%
50～ 99円	142 30.9%	103 30.3%	23 15.6%	268 28.2%
100～ 149円	85 18.5%	101 29.4%	61 41.5%	247 26.0%
150～ 199円	38 8.3%	21 6.1%	28 19.0%	87 9.2%
200～ 円	24 5.2%	27 7.9%	14 9.5%	65 6.8%
計	459 100%	343 100%	147 100%	947 100%



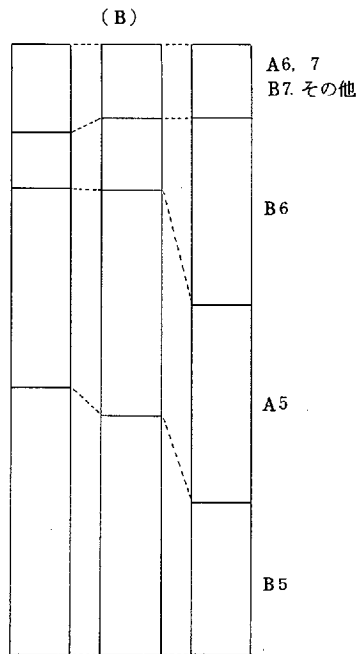
表(8) 費用はだれが負担しましたか

	小学校	中学校	高等学校	計
全額父兄	200 35.3%	188 46.9%	124 75.6%	512 45.3%
一部公費	10 1.8%	5 1.2%	2 1.2%	17 1.5%
全額公費	356 62.9%	208 51.9%	38 23.2%	602 53.2%
計	566 100%	401 100%	164 100%	1,131 100%



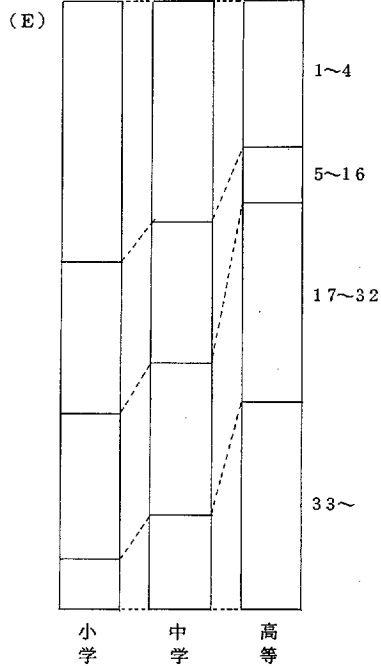
表(9) 健康手帳の大きさはどのくらいですか

	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
A 7	2 0.4%	4 1.0%	1 0.7%	7 0.7%
B 7	8 1.5%	3 0.8%	1 0.7%	12 1.1%
A 6	13 2.4%	12 3.1%	3 2.0%	28 2.6%
B 6	49 9.2%	45 11.8%	47 30.9%	141 13.2%
A 5	176 33.0%	142 37.2%	49 32.2%	367 34.4%
B 5	233 43.6%	149 39.0%	38 25.0%	420 39.3%
そ の 他	53 9.9%	27 7.1%	13 8.6%	93 8.7%
計	534 100%	382 100%	152 100%	1,068 100%



表(10) 健康手帳の頁数はどのくらいですか

	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
1～ 4	241 43.1%	147 36.4%	40 24.2%	428 37.9%
5～ 8	82 14.7%	46 11.4%	7 4.2%	135 12.0%
9～16	57 10.2%	47 11.6%	8 4.8%	112 9.9%
17～32	133 23.8%	102 25.2%	54 32.7%	289 25.6%
33～	46 8.2%	62 15.3%	56 33.9%	164 14.5%
計	559 100%	404 100%	165 100%	1,128 100%



この調査の集計結果で興味をひかれる事項は次の3点である。

1. 健康手帳を採用していない学校は44%ある。
2. 健康手帳はその作成者、大きさ、費用、費用負担など、学校ごとに違っており、全国的に画一化されていない。
3. 健康手帳はそのページ数からみると、4ページ以下のものと、17ページ以上のものの2群に大まかに分けられる。

健康手帳の使用の目標としては、次に示すような事が考えられる。

1. 保健教育活動に於いてその理解と実践化への一助。
2. 学校と家庭の密なる相互連絡による双方に於ける保健管理及び保健指導の強化。
3. 学校に於ける健康診断及び健康相談での活用。

これ等の目標の達成には、健康手帳の採用を今後共種々なる講習会等で指導し、さらに推進させる必要がある。

しかしこの調査結果からみると、健康手帳はその地域の特色を生かしたものが採用されて居り、又そのページ数からみても、健康手帳の利用面が主として保健管理に主眼が置かれ、保健教育の面は他の媒体を利用していると考えられる学校も多く、今後健康手帳の採用を推進させる際には、地域の特色を生かした健康手帳を尊重する配慮も必要であろう。

学童健康手帳と母子健康手帳の関連を考えると、連携が最も必要な事項は、上述の目標の3であり、これは他の手段（例えば健康診断票、保健調査等）でも可能な事項であろう。しかし、小学校における母子健康手帳利用度調査で分ったように、約70%の学校において母子健康手帳の記載事項が、学童健康手帳に転記されているのをみれば、又学童健康手帳が現在の段階で画一化されていない点等から考えれば、強いて関連をもたせる為に画一化をはからなくても、現在のものの記載を充実させ、活用をはかる工夫等を一段とすれば、かなり目的

が達せられるのではなかろうか。

研究まとめ

母子健康手帳利用度の調査として、母子健康手帳の記載がどの程度行われているか、全ページにわたって調査した。

妊婦及び0歳児の記録については、全国の都市に於ける995人の母親の持参した母子健康手帳をつぶさに調べ、1歳から6歳までの記録については、日本小児科学会会員であり、小児科開業の医師40名に依頼し、251名についての調査回答を得た。

小学校に入学する時等、どの程度母子健康手帳を利用しているか、全国2,000校の小学校を無作為抽出し、郵送法によりアンケート調査した。回答は1,392校、回収率69.6%であった。

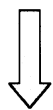
又学童健康手帳の使用状況等も調査検討した。

妊産婦の記事は比較的高率に記入がみられた。今回の対象は全国にわたったが、地方といっても都市での調査であった為、かなり良い成績が得られている。殊に12ページ出産の状態は92%がくわしく記入されている。然しその後の記載は、乳児期から幼児になるにつれ低率となっている。

母子健康手帳の利用は乳幼児期だけ、後は余り利用されない、或は予防接種の記録帳に過ぎない等とも云われるが、今回の成績もそのような結果を示した。

又母子健康手帳を入学時等学校へ持参させていますかの問いに、1,392校中190校(13.7%)が「はい」と答え、保健調査の時に手帳記載事項を転記させていますかの問いには1,392校中、951校(68.5%)が「はい」と答えている。然しその主な転記事項は出生時記録や予防接種であり、その他は記録もれが多くて役に立たない等とも云われている。なお学校に母子健康手帳と持参させる際問題となった事項に、「紛失する家庭が多い」とか、「離婚、再婚、養子等親子関係に問題のある家庭では、秘密保持の為手帳の提出に難色を示す」等があげられている。

学童健康手帳は採用していない学校が44%あり、その作成者、大きさ、費用、費用負担など学校ごとに違って居り、全国的に画一化されていない。従って、現段階で母子健康手帳と、学童健康手帳と関連をもたせる上から、強いて画一化をはかる事は困難なことである。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

昭和 18 年母子手帳が出来てから 40 年、この間何度かの改訂がなされ、最近では昭和 51 年に母子健康手帳のかなり大幅な改訂があった。

もともと母子健康手帳は母子保健法にもとづいて、妊娠の届出をしたものに対して交付され、母子保健の場で広く用いられて来た。妊娠から出産時の記録、出生後の児の記録、かなり大量の母子に関する情報が、この一冊の手帳に盛りこまれている筈であるが、実際にはその利用、活用はそれ程でもない。妊娠中の記録や予防接種の記録、1 歳迄の記録はまでも、幼児期殊に 3 歳児検診後の記録となると、むしろ記載のないものの方が多い。又問題のあるケースでは記載しにくいのであろうが、母子健康手帳から情報を得ることはなかなか困難である。

実際に母子健康手帳はどの程度利用されているのであろうか。又使いにくいとしたら如何なる点に問題があるのであろうか。小学校に入ると今度は学童健康手帳が使用されるが、母子健康手帳と学童健康手帳と、うまく関連づけられないであらうか。

本年度は母子健康手帳の記載が実際にどの程度行われ利用されているのか、又学校における母子健康手帳利用度調査、学校における健康手帳に関する状況を知ろうとした。